

「きのこ研修会」 活動報告

活動日：2024年9月7日（土） 10時～14時30分 晴れ

場所：埼玉県県民の森

参加者：池田、高杉、辰尾、岡登、関谷、廣川、二宮、田崎、藤井、土金、浅井、木口（12名）

講師：高杉 茂

報告者：木口 明浩



はじめに、主催者及び管理者のあいさつがあり、参加者各位の自己紹介を行った。この研修は、調査を兼ねたものであり、管理者である埼玉県農林公社から特別に採取の許可を得ていることを確認した。調査に当たっては、安全面に配慮し、3人1組でのグループ行動を心掛けて入山した。

調査エリアは、学習展示館の北側にある広葉樹の自然林と針葉樹林の斜面で、土壌は、前週の台風接近による影響でほどよく湿っていた。発見したキノコは、菌糸の伸びている先までを確認しながら、子実体全体を壊さないようにやさしく掘り出して新聞紙に包み採取した。こうして、およそ1時間半にわたる採取作業を完了した。

12時半から研修室内に移動し、各班が採取したキノコを取り出して並べていく。すぐに判るものから順に紙に名前を書いて置いていった。特徴をよく観察し、図鑑の記述と相違がないか照合しながら約2時間をかけて慎重に同定した。

図鑑に載っていないもの、傷みがあり、状態のよくないものなどは、似ていても十分な確証をつかめるまでは、無理に同定せず、「不明」として処理した。



■ツクツクボウシタケ / カメムシタケ

冬虫夏草の仲間は子囊菌で、かさをつくらない。棒状から棍棒状、たんぼ状のものが多い。先端付近のつぶつぶの内部に子嚢胞子と呼ばれる有性胞子を形成する。もう一方の先端が昆虫につながる。昆虫の死骸の内部は菌糸が蔓延していて硬い。「昆虫」側からしてみると感染したということであり、一方の「菌」側に立てば、上手く取り付いて増殖できたということになる。土の中で繰り広げられる自然界の厳しい現実を思い知る。



ツクツクボウシタケ



切断面（菌糸がびっしり）



カメムシタケ

■タマゴタケ

代表的な夏のキノコ、真っ赤な丸いカサが特徴的で、この時季は、周囲の岩や植物の葉の中でよく目立つ。遠くからでも発見しやすい。



■キアミアシグチ

漢字に変換すると「黄網脚猪口」でその名の通りであり、分かりやすい。



■キアシグロタケ

柄の元の部分が黒色でまるで黒い靴下を履いているようでおもしろい。



森林は、動物と植物、そして菌類が互いに補完し合いながらバランスを保って成り立っている。このことは森の生物多様性の維持にも繋がっているにちがいない。

毎年、同じ時期に同じ場所で、どんな菌が確認できるかという調査は、地味な作業ではあるが、森の環境変化を察知する手段の一つであり、異変に対処するために何らかのヒントを与えてくれるだろう。集積したデータがやがて、力を発揮し、貴重なものになることを信じたい。その意味で単なる年間行事としてではなく、意義あるプログラムとして継続したい。